

あいさつ

エコチル調査福島ユニットセンター
センター長 橋本浩一

平成から令和へつなぐエコチル調査

日頃よりエコチル調査へのご理解、ご協力に厚く感謝申し上げます。

平成23年1月から開始されたエコチル調査は8年を経過し、9年目を迎えています。福島県では全県下で、12,344人(対出生数95.1%、平成30年3月末)の児が参加しています。現在5歳から8歳の年齢で実施されている本調査は、子どもの成長とともに生活が変化し、それに合わせて調査実施方法の変化が求められています。平成30年度は、子どもの成長、発達、そして保護者の養育状況に合わせて様々なことに取り組みました。

「小冊子：エコチル調査でわかってきたこと」

出生以来、年2回の質問票は年間約25,000部に達します。一方で参加者からの情報を参加者や関係者に十分に還元できてないということが課題であり、4歳までの質問票の集計結果を冊子にまとめました。福島でのエコチル調査は全県下で実施していますので、福島県のリアルな子育ての状況を垣間見ることができます。当ユニットセンターホームページの「みんなの図書室」から閲覧可能です。また、本調査からの研究結果(論文)は環境省ホームページの「調査の結果」でご覧いただけます。

「環境セミナー」

新企画として、広く環境について学ぶ「環境セミナー」を開催しました。子ども達の成長を保護者と共に見守るお手伝いをし、その中で調査にご協力いただくのがエコチル調査ですが、同時に環境について一緒に学べる機会にしたいと考えています。記念すべき第1回目として、世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)より講師をお迎えし、「外来種って、なあに？」と題したご講演をいただきました。

「小学生対象ふれあい会」

“顔の見える調査”をモットーに、地域の公共施設で子どもの成長に合わせた「エコチルふれあい会」を開催してきました。これまでは保護者と児のふれあいを主目的としてきま

したが、初めて学童向けの「小学生対象ふれあい会」を霊山こどもの村で開催し、創作活動に臨みました。

「子育て講演会&ファミリーコンサート」

毎年「子育て講演会&ファミリーコンサート」を開催しています。平成30年度はアレルギー専門医による「みんなで守る：食物アレルギーと学校給食について」と題して講演会を開催しました。多くの参加者、関係者が講演に耳を傾けました。

「調査参加者の生活変化に合わせた実施体制」

エコチル調査では詳細調査として全参加者の5%(福島県では約630人)の方に医療機関での診察にご協力をお願いしています。児の就園、保護者の就業など生活が変化し、年齢が上がるほど日程調整が困難となり欠測が増えてきました。特に、夕方の遅い時間、土曜日の実施を望む声があります。令和からのエコチル調査は、これまでの10か所の地域基幹病院に加えて、約20か所の個人医院の協力のもとに実施する体制を整えました。

「小学校入学後のエコチル調査は？」

入学後のエコチル調査はこれまでとは違った大きな2つのポイントがあります。1つ目は就学前まで年2回、誕生日とその半年後に実施されてきた質問票調査が誕生日と学年調査としてそれぞれ1回実施されます。暦年齢ともに学校での学びが子どもの成長に大きな影響を与えるためです。2つ目は小学2年生、6年生時に実施される“学童期検査”です。学童期検査はエコチル調査参加者全員10万人を対象とし、調査会場まで来ていただく対面による調査です。福島ユニットセンターでは県内各地の公共施設等で土日、児童の長期休暇に集団検診方式で実施し、約12,300人の児を対象とします。4歳の年齢幅で実施されている本調査では“学童期検査”は8年間継続されます。令和元年夏からまずは2年生を対象として始まる、“学童期検査”がエコチル調査の成功の明暗を分けます。平成30年度は準備の年として検討を重ねました。

出生コホート研究であるエコチル調査において、児の成長とともに変化する生活への対応が、常に求められています。平成から繋いできた、令和元年からの8年間はエコチル調査にとっての“本命期”です。今後とも関係者の皆さまのご理解、ご協力のもと、子どもの成長に寄り添い、エコチル調査が適切に実施できるよう努めて参ります。